

# 心の動きに共感しありのままを受け止める

## ◆キーワード

- 1 共感
- 2 ありのままを受け止める
- 3 その人らしさ

～105歳のS様らしい生活の為に～

徳島県藍住町

いりょうほうじん りょううんかい  
医療法人 凌雲会

ぐるーぷほーむおやのいえ  
グループホーム親の家

職種・発表者 介護福祉士 はまだ ひろみ  
濱田 広美

共同研究者：稲次 正敬 稲次 圭  
稲次 美樹子 福富 郁代  
上村 佳乃子

平成17年12月1日開設  
2ユニット定員18名  
(併設事業所)  
小規模多機能ホーム親の家

(親の家基本方針)  
入居者は介護を受ける人ではなく生活の主役である。  
入居者の心の動きに共感しありのままを受け止める。

(はじめに)

グループホーム親の家では、“常に入居者と一緒に”をモットーに、時間で区切られたスケジュールでなく、おおまかなスケジュールで支援している。その中で、親の家の基本方針の一つである「入居者の心の動きに共感し、ありのままを受け止める。」という支援により、現在105歳のS様に対するその人らしさを大切に考え、支援してきたことを報告する。

事例紹介

S様105歳 (女) 要介護4 車椅子使用  
105歳になられるS様にこれからも元気にすごしていただけるよう、今までの支援を振り返り、新たに取り組むべき支援策を考えることにした。

(倫理的配慮)

研究発表に際し入居者、家人様に承諾を得ている。

(具体的な取り組み)

<食事>

食事を摂らない事が多いので、入居前から飲まれているカロリーメイト飲料を、朝、昼、夕と1本ずつ味を変え飲んでいただく。

<排泄>

尿意があり、日中は失敗が少ないS様に対し、リハビリパンツではなく、布パンツを使用するようにした。S様の排泄のタイミングを見て、トイレ誘導をする。S様の行動やサインを見逃さない。夜間も同じで、時間をみたり、「おーい。」の声が大きくなった時に誘導する。

<起床>

他の入居者や食事に合わすのではなく、S様の起きたい時間に起きていただくようにする。

<若返り>

年に数回、不定期であるが、若返りの症状がある。その時はS様も上機嫌の為、スタッフと自宅に帰る、お寺にお参りに行く等の外出をする。

<昼寝>

S様も105歳になるが、車椅子でよく動かれる

為、疲れが溜まっている様子があるので、午後から昼寝をしていただくようにする。

(活動の成果と評価)

食事についてはカロリーメイト飲料が主流であるが、その他にチョコレートや甘いココアが好きで、よく食べたり飲んだりされている。この食生活では不安もあったが、ほとんど体調を崩さず、転倒をしても骨折はされないほど元気である。

排泄については、布パンに変えてからも、S様の出したサインをスタッフがキャッチし、S様の声の様子や時間をみてトイレ誘導をすることで、夜間もほとんど失敗なく過ごされている。

起床についても無理に起きていただくこと機嫌が悪くなる為、S様のタイミングにあわせ、起きていただくことで機嫌よく起きられ、トイレ誘導や更衣もスムーズに行うことができ、朝食時に「みなさん、おはようございます。」と元気に声を出され、君が代を歌われることもある。

若返った時については、スタッフと共に自宅に帰られ仏壇に向かい、般若心経を唱えられるS様に家人様も喜んで下さった。お寺にお参りに行った時には、丁寧に拝まれ、神様に感謝の意を述べられ幸せそうな顔をされていた。

昼寝については、午後に昼寝をすることで疲れが取れ、すっきりとした顔で起きられるようになった。

(考察・まとめ)

105歳だからこれはダメ、こうしないと！という概念を捨て、S様にとってどんなことが嬉しいのか、幸せなのかを考えて支援してきたことで、S様らしい生活が維持できているのではないのかと思う。重度化になっても時々見せてくれる笑顔にスタッフは癒される。その笑顔が消えないよう支援を続けていくことが私達の目指す親の家に繋がっていくと思う。その人らしさを考え、重度になった方にもそうでない方にもバランスよく支援し、介護に追われているスタッフではなく、一緒に時間を共有するスタッフでありたいと思う。